

3年生4月の進路希望調査結果では、就職希望生徒が25人となっており、やや増加傾向にあるものの、約80%の生徒は高校卒業後は、大学・短大・専門学校への進学を希望しています。今回の進路室通信では、特に「進学希望」の生徒を対象として、進学先を決めていくプロセスの中で重要な意味を持つ、オープンキャンパス・体験入学の利用の仕方について特集しました。

近年、志望校に入学したものの、その学校が自分の希望に合わないことがわかり、途中で退学して翌年に別の学校を受け直すというような残念なケースが少なくありません。せっかく、希望に満ちて入学したはずなのに、こんなことはやるはずではなかったと無駄な1年を過ごすことになってしまうことは、何としても避けたいところ。金銭的にも多くの無駄が生じてしまいます。

進学先(志望校)を決めるのは、いわば「お見合い」のようなものです。少なくともこちら側(受験生)は相手(大学・短大・専門学校)に対して、相当の思い入れが必要です。その学校についてあらゆる角度から調べ、十分すぎるくらいに憧れや思い入れを抱いて、入試に立ち向かいたい。その準備として、オープンキャンパスは極めて有効な手段となるものです。

但し、オープンキャンパスも、利用の仕方がまずければ、単なる見学に過ぎないものになってしまう危険性もあります。時間や交通費をかけて参加する以上、本当にその学校が自分の夢の実現につながるかどうかをしっかりと判断できるようにしてきたものです。

そこで、効果的なオープンキャンパスの参加方法を以下に紹介させていただきます。是非、参考にしてみてください。

<大学・短大の場合>

①事前しておくべきこと

まずは「オープンキャンパスに行ってみよう！」と興味がわいてくる大学や短大を探そう。アコガレの大学がまだ見つからない場合は、名前を聞いたことがある大学や、先輩が進学している大学、また地元の大学について調べてみよう。

ある程度絞れたら、その大学について、ホームページや学校案内のパンフレットを取り寄せるなどして、調べてみよう。調べるポイントは以下の内容を参考にしてみてください。

- | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-----------|-------|
| 1) 受験科目・入試方式 | 2) 授業内容・シラバス | 3) キャンパスの設備 | | |
| 4) 卒業後の進路先 | 5) サークル活動 | 6) 取得資格 | 7) 学習支援態勢 | 8) 学費 |

これらのことを調べていくうちに、その学校に対してあこがれの気持ちが生まれてきたら、オープンキャンパスの日程を調べてみよう。オープンキャンパスに参加する場合、予約が不要の所もあれば、事前申込みが必要なところもあります。信州大学はホームページから申し込むようになっています。ご注意ください。特にどんな学部・学科、講演会、模擬授業を見に行くのかも、事前に明確にしておくこと。

②オープンキャンパスに参加

行きたい大学の資料を見て、キャンパスの雰囲気や学べる学問が少しイメージできたら、実際に足を運んでみよう！実施日程を調べて具体的な予定を立てよう。首都圏などの学校の場合は、せっかく交通費をかけていくわけだから、1日で2~3校くらい欲張ってみてもいいかもしれません。

いよいよオープンキャンパス直前！服装や持ち物は確認したかな？当日、効率的に見て回れるように予定を立てておこう。保護者の方と一緒にいく場合、保護者向けイベントも要チェック！また、もしもオープンキャンパスの当日、そのキャンパスで、親しかった先輩などに会える機会があれば、大いに利用したい。先輩から聞ける生の声は貴重です。

③参加当日

後で思い出すためにどんなことでも必ずメモしておくこと。あらかじめ決めておいた見学したいところを見終わったら、生協などの施設にも足を運んでみてください。できれば、学生食堂で、食事をしてみることもおすすめします。また、キャンパス内を歩いているその学校の学生の様子も観察してきてください。場違いな感覚を覚えなければ、OKです。

④事後のまとめ

オープンキャンパスは1校で終わりにせず、可能な限り同じような学部・学科を設置している他校にも参加して、比較することをおすすめします。そのためにも、参加後は「記録用紙」に自分の印象などをきちんと記録しておくことが大切です。

もしも、参加した大学・短大に違和感を覚えたら、他大学や他学部などを再度調べ、オープンキャンパスに参加することが必要です。1, 2年生は次年度での参加もできますが、3年生は夏休み中に何とか結論を出さなければなりません。焦りは禁物ですが、やはり、2~4年間をかけて、安くない学費を払っていく価値がある大学をしっかりと見極めてほしいところです。

<専門学校の場合>

就職・資格に特化した指導を受けることになるので、自分の憧れや思い入れだけではなく、「適性」があるかないかも重要なポイントになります。その意味で、オープンキャンパスに参加するのは、大学・短大以上に重要となります。実際に”仕事”を体験して、自分に向いているか、イメージどおりの仕事かどうか、たしかめてみる機会にしてほしいと思います。以下の点をポイントにしてみてください。

- ①就職状況はどうか？ 専門分野を生かした就職先は？ 主として就職していく地域はどこか？ など。
- ②取れる資格は何か？ 実際にその資格をとるためにはどんな勉強をするのか？資格の取得状況は？ など。
- ③学費はどうか？ など。

(オープンキャンパス Q&A)・・・マナビジョン(ベネッセ)より抜粋

Q1 オープンキャンパスにはどんな服装で行ったらよいですか？

A:服装は自由。歩きやすい靴で行こう！服装には特に決まりはありません。ただ、大学のキャンパスは広いので、歩きやすい靴にしましょう。

Q2 事前に予約する必要はありますか？

A:予約が必要な場合もあるので要注意！大学によっては事前予約が必要なところもあります。「オープンキャンパス検索」(ベネッセのHPから)の結果画面や個別大学情報ページのオープンキャンパス情報では事前予約の要・不要も載せていますので、そちらを確認してください。また、特定のイベントのみ要予約という場合もあります。必ず、大学のホームページでも確認することをおすすめします。Q3 ひとつの大学でも、いろいろなキャンパスでオープンキャンパスがありますが、どこでも同じですか？

A:興味のある学部があるキャンパスを見にいこう 複数キャンパスがある大学では、自分が興味のある学部がどのキャンパスなのかを大学のホームページなどで調べて、そのキャンパスを見にいきましょう。

Q4 高校1年生でも行ってかまいませんか？

A:ほとんどの大学で、高校1年生から参加可能！ほとんどの大学で、高校1年生から参加可能です。早いうちから、進路や大学を意識しておくのはとてもよいことなので、ぜひ参加してみましょう。

Q5 受験すると決めていない大学でも行ってかまいませんか？

A:もちろんOK！できれば複数の大学を見にいこう！もちろんかまいません。いろいろな大学を見て比較することで、より自分の志望もはっきりしてくるので、時間が許せば複数大学に参加することをおすすめします。

Q6 オープンキャンパスで費用はかかりますか？

A:参加費は原則無料！オープンキャンパスの参加費は必要ありません。もちろん、交通費や食事代などは自己負担になります(一部の大学では、交通費などを補助してくれる場合もあります)。

<この時期における「進路学習」について>

(1～2年生)

高校での進路選択は中学校までとは全く異なります。高校での進路の選択は、自分の生き方とより深く結びついていて、「安易」な考えでは今後大きな後悔につながる危険性もあります。また、選択の幅も非常に広く、大学・短大・専門学校から就職に至るまで、更に、その中でどんな分野を選ぶのか、と考えると、到底短期間で選ぶことはできません。また、進学の場合大学だけをとっていても、全国に700以上ある大学から、自分が4年間学ぶ所を最終的に一つ選ぶわけですから、周到に進めていかないと絞り込むことはたやすいものではありません。短大や専門学校まで含めると膨大な数になります。中学校時代に高校を選ぶのとは訳が違います。その意味で、高校での「進路」については、とにかく早い段階から考えたり、相談したり、調べたり、見学に行ったりすることが必要になります。オープンキャンパスは1年生でも参加できます。可能な限り参加してみてください。

(3年生)

進路の選択を決定するまで残された期間はそう長くはありません。就職か進学かの選択、そして、それぞれに自分が納得できるような選択でなければなりません。また、その進路希望を実現させるためにどんな努力(受験方式や受験科目、そしてそれに向けての勉強など)が必要なかを明確にし、実行に移していくことが重要ですし、保護者との詰めた相談も不可欠です。但し、「待ったなし」の状況の中でも、「焦り」は禁物です。焦るあまり、「とにかく合格を最優先させる」というような自分の安売りにつながることだけは絶対に避けたい。後で後悔することになりかねないからです。県大会が終わってよいよ進路のことを真剣に考え始める時期に、最初から「合格優先」という姿勢にだけはならないように注意したいものです。

以下には、「マナビュー」(NPO 法人夢のデザイン塾)からの進路に対する考え方についての記事を参考までに載せておきます。進路室前に数冊ありますので、ほしい人は、自由に持って行ってください。

<進路選択のために高校生に考えてほしいこと> 法政大学キャリアデザイン学部教授 児美川孝一郎

進路を考えることは生き方考えること

進路とは、将来の方向や進んでいく道のことです。ですから、就職先の会社や進学先の専門学校・大学が、進路なのではありません。それらは、高校卒業後の進路の道のりの第一歩でしかありませんし、自らの進路を実現するための手段なのです。

こうした意味での進路は、将来にわたって続くものであり、最近では、「キャリア」と呼ばれることも多くなりました。このキャリアのとらえ方に関しては、二つほど注意すべきことがあります。

一つは、キャリアには「外側のキャリア」と「内側のキャリア」があるということです。外側のキャリアは、進学、卒業、就職、昇進、結婚といった客観的な進路のことを指します。それに対して、内側のキャリアとは、そうした進学や就職といった外側のキャリア、個人の側がどのように捉え、自分なりに意味づけているのかというものです。進路選択においては、実はこの**内側のキャリアが大切なのです**。たとえば、志望していたA大学には合格できず、少しランクの落ちるB大学に進学したとしましょう。外側のキャリアはB大学への進学です。しかし、内側のキャリアとしては、志望のA大学ではなかったけれども、B大学の特色ある正課外教育のプログラムを積極的に活用して、頑張っていこうと思直したといったことが考えられます。

もう一つ、キャリアには、仕事上のキャリア(これを「ワークキャリア」と言います)だけでなく、学習者としてのキャリア、生活者としてのキャリア、家族の一員としてのキャリア、地域社会や国の構成員としてのキャリアといった幅広いキャリア(これを「ライフキャリア」と言います)があります。

高校生の皆さんには、自分の将来について考える時、先に述べた内側のキャリアとともに、ライフキャリア全体の広がりにも目配りをしてほしいと思います。そうした意味で、進路(キャリア)について考えることは、自らの生き方考えることなのです。

(中略)

進路は誰のためのものか?

唐突に思うかもしれませんが、進路は自分だけのものではありません。もちろん、進路は、高校生の皆さんが自分自身で

選ぶものです。その意味では、個人的なものです。しかし、皆さんがどのような進路を選ぶのかには、実は、私たちの社会の未来が重なっているのです。私たちの社会がこれからどうなっていくのかということに関係しているのです。

皆さんは、高卒後すぐに、あるいは、大学や専門学校を卒業した後、いずれ働き始めます。人はなぜ働くのでしょうか。「経済的な報酬を得るため」「やりたいことを通じて自己実現するため」。いずれも正解です。でも、もう一つあるのです。「仕事を通じて社会に参加し、自分の役割を引き受けるため」です。

私たちの社会は、分業によって成り立っています。社会のあちこちで、それぞれに求められる多種多様な職業（仕事）を引き受けてくれる人がいるからこそ、私たちの生活は、こんなに便利なのです。職業選択をするということは、そうした社会的分業のうちのどこの役割を自分は担おうとするのかを決めることなのです。高校生の皆さんには、進路を選択することの、こうした社会的側面にも気づいてほしいと思います。

ライフコースの変化

進路選択の前提として、社会の動きや変化をよく見ておくこと。そうした変化を読み取り、見抜く力をつけてほしいと思います。

高校卒業者数と卒業後の就職率・進学率との関係では、平成元年には大学等の進学率は約30%だったのに対して、平成24年3月時点では53.5%となっており、進学率が急上昇しています。

では、進学者が増加して、若い人たちの前途は洋々なのでしょうか。そんなことはありません。大卒者のうち11.3%は大学院へ進学し、正規の就職者は63.2%で、残りは非正規雇用などの不安定な状態にいます。これは、皆さんのご両親の時代では考えられなかった状況です。しかし、これが今時の大卒の実態なのです。

このように、社会は急速に変化し、日本人のライフコースも大きく変わってきています。変化を貫く特徴は、個々人のキャリアの多様化であり、複雑化であり、不安定化です。みなさんは、今後、こういう社会に漕ぎ出て行くのです。変化にも厳しさにも対応できる、しっかりとした自分をつくっておく必要があるでしょう。

(中略)

産業、職業、仕事について知る

まずは、日本の産業がどういう状況になっていて、職業や仕事がどういう状態になっているのか、個別の職業や仕事に就くためには、どんな資格や能力が求められるのか、といった点についての理解を深め、「社会」基準の視点も持ってほしいのです。そして、「自分」と「社会」を往復する学びを重ねる中で、この分野の専門的知識を獲得したい、この領域に関する力量を高めておきたいといった理由から、大学や専門学校に進学することが選択肢として浮上することもあるでしょう。大学や専門学校は決して、「みんなが行くから」「ここなら入れるから」といった理由で進学するところではないわけです。

(中略)

やりたいこと、やれること、やるべきこと

最後に、自分の将来や進路を考える際の発想法のヒントみたいなことについて、二つほどお話しします。

一つは、自分の「やりたいこと」（夢）だけではなく、「やれること」（能力や適性）と「やるべきこと」（役割）について、考えてみるといいということです。夢や自己実現を否定する必要はありませんが、人には向き、不向きがあります。また、他者や社会から求められる役割をこなしていると、それがやりがいをもたらす、自らのやりたいことに転化することもあります。

やりたいこと、やれること、やるべきことの輪を大きく広げていって、これらの三つが交わる場所で進路選択ができれば、これほど幸せなことは無いはずですよ。

夢よりも、キャリアのアンカーを

もう一つは、一つの職業をピンポイントの「夢」として追いかけるよりも、自分のキャリア（生き方）の根っこ（これをキャリアアンカーといいます）を見つめてみてはどうでしょうかという提案です。

人と接するのが好きで、人に喜ばれたり、人の役に立つことをしている時に充実感を感じる人は、そういうアンカーを持っているのです。ものを作るのが好きで、そのためになら時間もお金も惜しまないし、次から次へとアイデアが浮かんでくるといった人は、やはりそういうアンカーを持っています。そして、それぞれのキャリア・アンカーにふさわしい職業や仕事は、たった一つではなくたくさん存在しています。（中略）

たった一つの職業を絞り込むのではなく、こうしたキャリア・アンカーを大切にしてみてもいいでしょうか。ある意味では偶然にも左右されますが、それでいいのです。そういう選び方をしていれば、どんな仕事に就くことになったとしても、それなりの納得が得られるはずですよ。「やりたいことがわからない」状態から、自分自身を解放してみてください。